

原本

3

見 解 書

明星大学青梅キャンパス建設事業

昭和58年4月

学校法人 明 星 学 苑

I 総 括

I - 1 事業者の氏名及び住所

学校法人 明星学苑
 代表者 理事長 児 玉 三 夫
 東京都府中市栄町一丁目1番地

I - 2 事業の名称

明星大学青梅キャンパス建設事業
 [建築物の建築の用に供する目的で行う土地の造成]

I - 3 事業の内容の概略

表-1 計画の概要

事業規模		主たる施設
位 置	東京都青梅市長瀬二丁目590番地他	I 校舎等の建物 A 高層1棟(7階建) 大学本部棟 B 中低層16棟 学部用校舎 学生施設等 II 学生スポーツ用施設 A グラウンド施設 陸上競技場 野球場等 B 屋内及び半屋内施設 競泳用プール 球技用体育館等
計画区域面積	約85.0ヘクタール	
造成区域面積	約88.0ヘクタール	
計 画 人 口	学生数5400人、教職員数300人	
学部・学科	理工学系の学部 4学科 人間科学系の学部 4学科 女子短期大学部 3学科	

I - 4 意見及び事業者の見解の概略

評価書案について、都民からの意見書が3通と関係地域が位置している青梅市長からの意見が提出された。また公聴会においては、公述人3名から意見が述べられた。これらの主な意見と事業者の見解の要旨の概略は、表-2の通りである。

表-2 主な意見の要旨と見解の要旨の概略

意見の要旨	見解の要旨
<p>秋川街道での交通量調査結果は他の機関が実施した交通量よりも少なく交通量の少ない時期の調査結果に基づいて騒音・振動が予測されたのであれば、予測値の信憑性に疑問がある。</p>	<p>秋川街道における24時間交通量調査は評価書案で実施したものが唯一のデータであり、他の調査はいずれも12時間交通量である。従って昼夜率、24時間変動パターンは、本事業での調査結果を採用する他はなく、本事業での24時間交通量を基に予測・評価を実施している。なお他機関の12時間交通量を基に騒音レベルの再予測を実施したところ、道路端で評価書案による予測値より2～8ホン高い68～65ホンとなるが環境基準は満足している。</p>
<p>他地区との植物相の比較がなされておらず、もっと植物相の検討を積極的に行うべきである。</p>	<p>注目すべき植物等の抽出に当たっては、他地域の植物相の資料を検討した上で行い、また植物群落についても構成する植物相からの検討を行い、可能な限り植物相の検討を行った。</p>
<p>山王川の上流にはトウキョウサンショウウオが生息している。これらの保護を念頭において開発して欲しい。</p>	<p>昭和58年8月の再調査の結果、事業計画区域内では2箇所生息を確認した。1箇所は盛土部の中心付近にあり消失するが、産卵数の多い他の場所は残存緑地内にあり、今後十分な保存のための配慮をするので当該地域の種の消滅はない。</p>
<p>地区外の河川では現在でも台風の際に水害を起している。開発により鉄砲水や河川の氾濫が起きないよう調整池等は十分な検討を加えて欲しい。</p>	<p>山王川に洪水調整池を設け洪水ピーク流量を下流の流下能力限度内となるよう調節して放流する計画である。調整池の調節容量の算定は「改訂防災調節池技術基準(案)」に基づいて行い、計画降雨を50年確率の降雨強度式を用いて計画した。(24時間雨量84.5mm、60分雨量96mm)</p> <p>なおこれらの計画は許認可権者の審査を受け許可を得て実施することになる。</p> <p>また地区外河川の改修についても青梅市及び許認可権者の指導に従う。</p>

Ⅱ 対象事業の目的及び内容

Ⅱ-1 目 的

明星大学は、現在、約247,000㎡、学生数約6,000名の規模で、国際化しつつある社会の要請に応じた人材の育成に貢献している。しかし、現在の敷地内では時代の進歩に対応する諸施設の充実や、各方面よりの学部、学科の増設の要望に応じられない状況である。

そこで、青梅市長湖地区に、新たな大学キャンパスを設け、教育施設、研究施設、運動施設等の諸施設を充実することによって、大学に課せられた社会的責務を果たしていくことを目的として、当事業を実施するものである。

事業の実施に当っては、以下の目標を設定した。

- ① 現代社会のニーズに対応できる教育の場をつくる。
- ② 自然環境を生かした教育の場をつくる。
- ③ 地域社会との融合を図った教育の場をつくる。

Ⅱ-2 内 容

Ⅱ-2-1 位置及び区域

事業の位置および区域は、東京都青梅市長湖二丁目590番地及びその他の地域で図-1に示すとおりである。

Ⅱ-2-2 事業規模

表-3 事業規模

計画区域面積	約85.0ヘクタール
造成区域面積	約38.0ヘクタール
計画人口	学生数5,400人、教職員数300人






事業計画区域位置図

土地利用計画図



凡例

-  事業計画区域
-  青森市道
-  場内幹線道路
- A** 女子短大大学部棟
- B** 大講堂(2,000人)
- C** 本部棟
- D** 文化系研究室棟
- E** 工科学研究室棟
- F** 体育施設
- G** セミナーハウス
- H** 大学センター

図一 位置図・土地利用計画図

Ⅱ - 2 - 3 土地利用計画

表 - 4 土地利用計画表

名 称	面積(m ²)	比率%
建 物 用 地	144,050	16.95
運 動 施 設	101,260	11.91
キャンパス内道路	34,150	4.02
駐 車 場	8,900	1.05
法 面 等	91,670	10.78
自 然 緑 地	470,066	55.29
合 計	850,096	100.00

Ⅱ - 2 - 4 年次計画

表 - 5 年次計画表

年度	開 設 学 部		入 学 定 員 (人)			総定員(人)
			女子短期大学	人間科学系	理工学系	
昭和 60年	女子短期大学部開設	3学科	300			300
63	人間科学系の学部開設	4学科	300×2学年	600		1,200
66	理工学系の学部開設	4学科	300×2学年	600×4学年	600	3,600
69	全学部・全学年入校		300×2学年	600×4学年	600×4学年	5,400

表 - 6 工 程 表

項目	年度(昭和)									
	58	59	60	61	62	63	64	65	66	
防 災 工 事	////									
造 成 工 事	////									
附 帯 工 事		////								
建 築 工 事		////								
学 部 開 設			女子短期大学部			人間科学系の学部				理工学系の学部